NIPPOのイメージを言葉に!

コーポレートスローガン制定!

コーポレートスローガン

「この道の先に」

この道の先に NIPPO

コーポレートスローガン「この道の先に」は、
日本の道づくりをリードしてきたNIPPOの
未来へ向かう姿勢と希望を託したメッセージです。

お問い合わせ先

株式会社NIPPO　環境安全・品質保証部
〒103-0028 東京都中央区八重洲1-2-16 TGビルディング
TEL: 03-3563-6734　FAX: 03-3567-4085
URL: http://www.nippo-c.co.jp/

2015年9月発行（次回発行予定2016年9月）

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C017928

Waterless Printing Naturally.

VEGETABLE OIL INK

この報告書は「FSC®認証紙」を利用し、印刷には環境にやさしい「植物油インキ」と「水なし印刷」を採用しています。

この道の先に NIPPO

CSRレポート 2015

NIPPO CSR Report 2015

株式会社 NIPPO

企業理念

わたしたちは
確かなものづくりを通して
豊かな社会の実現に貢献します

行動指針

・信頼を築く
・技を磨き、伝える
・夢をいだき、挑戦する

企業行動5つの誓い

法令遵守 ▸ その行為は法律に違反していないか
企業倫理 ▸ その行為は企業理念や倫理に違反していないか
社会常識 ▸ その行為は社会の常識か
社会の目 ▸ その行為は社会の目、安心、安全にそむいていないか
自分の心 ▸ その行為は間違いないか、自分の心に問いかける

（2015年現在）

社　　名：株式会社 NIPPO

英 文 社 名：NIPPO CORPORATION

設　　立：1934年（昭和9年）2月

本社所在地：〒103-0028
東京都中央区八重洲1-2-16 TGビルディング
TEL 03-3563-6751（代表）

代 表 者：代表取締役社長　岩田 裕美

資 本 金：15,324百万円

事業内容：建設事業、アスファルト合材等の製造・販売事業、
開発事業およびその他の事業

従業員数：1,709名（男性1,622名、女性87名）※2015年3月31日現在

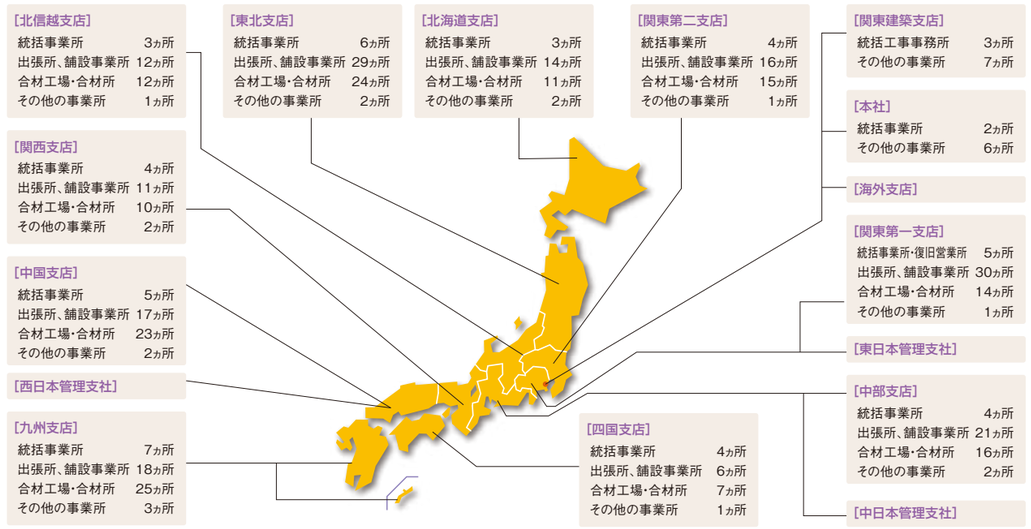
ホームページ：http://www.nippo-c.co.jp/

株式会社NIPPOはアスファルト舗装工事を中心とする舗装・土木工事およびアスファルト舗装の材料であるアスファルト合材の製造・販売を中核事業としています。

舗装・土木工事の対象は、一般道路、高速道路、レーシングコース、空港から、市民の憩いの場となる公園、テニスコート、サッカーグラウンド、さらには庭先舗装まで広範囲に及びます。また、製造したアスファルト合材は当社の工事で使用するだけでなく、ほかの舗装工事業者にも販売しています。

このほか、オフィスビルや工場等の建築工事、都市型マンションの分譲や市街地再開発等の開発（不動産）事業、土壌浄化事業、海外事業といった戦略事業を取り込み、事業基盤を強化しています。

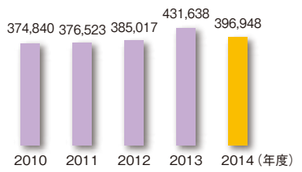
事業所一覧（2015年4月1日現在）



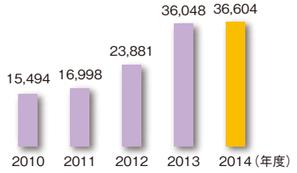
CSR活動への取り組み

1934	日本石油（株）道路部と浅野物産（株）道路部の合同により「日本舗道株式会社」を設立
1993	企業行動倫理委員会設置
1994	環境保全活動推進のための諮問機関として環境管理委員会を設置 企業理念・行動指針制定
1995	シンボルマーク改訂
1998	環境に関する基本理念と行動指針を表した環境保全活動指針を制定
2003	日本舗道株式会社が、新日石エンジニアリング株式会社を吸収分割して「株式会社NIPPOコーポレーション」に商号変更 法令遵守（コンプライアンス）体制構築
2004	環境報告書創刊
2005	CSR体制構築
2006	企業理念・行動指針改訂
2007	CSRレポート創刊
2009	「株式会社NIPPO」に商号変更
2012	プラントエンジニアリング部門を「JXエンジニアリング株式会社」に会社分割

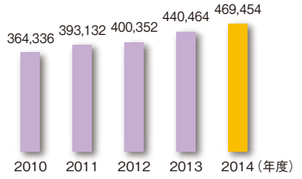
売上高（連結）
（百万円）



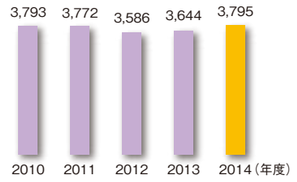
経常利益（連結）
（百万円）



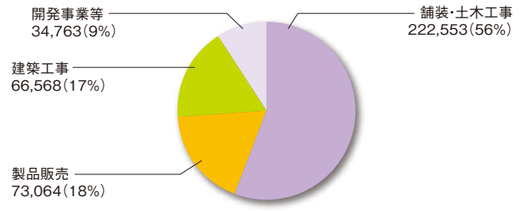
総資産額（連結）
（百万円）



従業員数（連結）
（人）



事業分野別売上高（2014年度）（連結）　（百万円）



CONTENTS

会社概要 1
トップメッセージ 3
NIPPOの事業 5
マネジメント報告
コーポレート・ガバナンス 7
CSRマネジメント 8
コンプライアンスと品質保証体制 9
環境・安全報告
安全管理 10
環境マネジメントシステム 11
舗装事業における環境保全活動 13
舗装事業における環境技術 15
戦略事業における環境・安全配慮 17
社会性報告
お客様の信頼を得るために 19
従業員とのかかわり 20
社会とのコミュニケーション 21
読者の声を受けて 23
第三者意見 26

編集方針

CSRとは、Corporate Social Responsibilityの略で、「企業の社会における信頼性」と訳されます。このCSRレポートでは、株式会社NIPPOが社会から信頼されるために取り組んでいる活動を紹介し、一般の方にとってなじみの薄い建設業を事業活動の中心とする株式会社NIPPOと、経済、環境、社会とのかかわりについて、多くの方々に知っていただくことを編集の基本方針としています。

このレポートをツールとして当社と関わる多くの方々とのコミュニケーションをさらに充実させていきたいと思います。

対象範囲と対象期間

対象範囲：株式会社NIPPOの本社、管理支社3カ所、支店12カ所、統括事業所・統括工事事務所・復旧営業所50カ所、現業事業所361カ所（海外を除く）。

対象期間：2014年度
（2014年4月1日から2015年3月31日）
一部には、時期を明示した上で2014年度以前の情報と2015年9月までの最新情報を掲載しています。

この道の先に

――私たちNIPPOは豊かな社会の実現に向け 常に時代の一歩「先」をいく企業として 歩んでまいります

株式会社 NIPPO
代表取締役社長 岩田裕美

NIPPOは、昨年創業80周年を迎えました。そして、新たな1年をスタートするにあたり、コーポレートスローガンを制定しました。

『この道の先に』

企業理念である「確かなものづくりを通して、豊かな社会の実現に貢献する」会社として、未来へ向かう姿勢と希望を託したメッセージです。私たちNIPPOは、これからも豊かな社会の実現に向け、常に時代の一歩「先」をいく企業として歩んでまいります。

人の命を守る

2014年度、当社は4年ぶりに死亡災害ゼロを実現しました。「人の命を守る」これは、企業がまず果たすべき根源的な社会的責任です。死亡災害ゼロを継続的に達成し、NIPPOが社会的責任を果たしていくためには三現主義（現地・現物・現実を直接見て把握すること）と当事者意識を基本とし、「安全作業4つの誓い」を確実に実践することしかありません。

①重機・車両後退時「誘導合図の確認」
②土砂崩壊「土留めの確認」
③転落・墜落「安全帯の確認」
④非定常時作業「装置停止の確認」

ルールと決めたことを確実に守り、守らせることを愚直に実践してまいります。

確かなものづくり

企業理念にある「確かなものづくり」は、法令を守り、安全に、環境保全に配慮し、お客様が満足するものをつくり上げて初めて成り立ちます。

そして、この「確かなものづくり」を成し遂げていくのは人です。いかに、IT技術が進歩し、省力化が進もうとも、最終的に判断し、仕事をまとめ上げるのは人なのです。ものづくりとしての建設業の担い手不足が叫ばれ始めて久しいですが、当社が置かれている状況もまさに同じで、現場最前線で働く技能員や技術職員などの現業部門とそれをサポートする管理・営業等の間接部門の人材の確保と育成が喫緊の課題です。「ものづくり」は「人づくり」の基本理念のもと、当社では、従業員の現場力・CSR意識を高める各レベルごとの育成研修に注力するとともに、CSRを受身ではなく、能動的に実践する企業風土を目指して、仕組みづくりに取り組んでまいります。

環境技術への取り組み

当社では「確かなものづくり」の一つとして、環境に関わる技術開発に取り組んでおります。NIPPOは、1970年代より「アスファルト舗装のリサイクル技術」の研究開発に取り組み、その後も廃ガラス、ゴミ溶融スラグなど他産業副産物を舗装材料として有効活用する技術など、資源循環型社会の構築に向けた研究開発を推進しています。

また、低炭素社会に対応する技術として、アスファルト舗装の中温化技術のほか、材料製造時の二酸化炭素排出量を抑えた低炭素型半たわみ性舗装材の商品化、並びにタイヤの転がり抵抗を低減し、車の燃費向上につながるアスファルト舗装の開発を進めています。

NIPPOが他社に先駆けて開発、実用化したヒートアイランド現象を抑制する「遮熱性舗装」は、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催へ向け、特に注目されている環境配慮型舗装技術です。これからもNIPPOは常に一歩「先」の環境技術に取り組んでいきます。

地域社会とのかかわり

NIPPOは建設業界の中でも、トップグループの全国の事業所ネットワークを持っております。この事業所ネットワークを活用し、自然災害時の緊急復旧活動に対応するとともに各地域に根ざした清掃活動、学校グラウンドの整備活動、「道づくり」の出前授業など、各地域の従業員発案の身近な社会貢献活動に取り組んでおります。

さらに、全社としては、アスファルト合材の出荷量に合わせたNPO法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会」への寄付、JXグループの一員として「童話の花束」への参加などの社会貢献活動のほか、2015年、プロコンチネンタルチームにランクアップし、日本を代表する自転車ロードレースチームとなった「Team NIPPO」やマスコットキャラクター「ミッチーくん」を通して、「道づくり」および「道づくり企業」のPR活動を行っております。

このたび、「CSRレポート2015」に当社の活動をまとめましたので、ご一読いただければ幸いです。皆様のご理解とご支援、忌憚の無いご意見を賜りますようお願い申し上げます。

NIPPOの事業

事業活動を通じて、社会の様々な場面で当社の技術力を活かした「確かなものづくり」を実践し、豊かな社会の実現を目指しています。

土壌浄化事業

事業を通じて汚染を社会全体に拡散させないことを念頭に、「土壌浄化」工法の提案に日々努めています。また、搬出する汚染土壌の管理伝票購入費の一部は、土壌汚染対策助成金に使われています。

開発(不動産)事業

環境と安全に配慮し、永く安心できる住環境の提供を柱とした不動産事業を展開しています。「環境重視」・「安全性の高い商品企画」・「資産価値の高い街づくり」をコンセプトとし、全国の主要都市において、マンション分譲事業「Le Cinq(ル・サンク)」シリーズ、賃貸事業「ABAS(アバス)」シリーズおよび市街地再開発事業に取り組んでいます。

グランクロスタワー広島

海外事業

中国やインド、東南アジア諸国を中心としたテストコースの建設、アフリカ諸国を中心とした、日本の政府開発援助(ODA)による道路整備事業への参画など、当社の高い技術を活かし、世界での活躍の場を広げ、各国のインフラ整備に貢献しています。

グアム国際空港

舗装・土木事業 スポーツ施設

舗装・土木事業 空港

舗装・土木事業 高速道路

舗装・土木事業 一般道路

建築事業

マンション建築

1983年から本格的に建築事業に参入し、実績を積み重ねています。様々な要望と施工環境に対応し、技術の蓄積でお客様との信頼を築いてきました。環境に配慮して地域社会に合った夢のある快適空間を提供しています。

製品製造・販売事業

弘前合材工場

凹道埋(あなみち うめ)たろう

アスファルト合材を製造・販売する工場を全国に展開しています。これらの工場では、舗装工事で現場から回収された舗装廃材を受け入れ、その全量を自社工場内で再資源化、再利用するリサイクルシステムを構築し「循環」を完結しているほか、燃料のガス化や省エネ機器の導入等によるCO_2排出量削減に取り組んでいます。

舗装・土木事業

テストコース

三四六総合運動公園陸上競技場

1934年の会社設立以来「道づくり」を中心に空港、スポーツ施設など、幅広く社会インフラの整備を行っています。近年は、環境に対する国民意識の高まりを受け、「CO_2排出量を削減する低炭素舗装」や「ヒートアイランド現象を抑制する舗装」などを国内で初めて開発し、沿道環境や地域環境の保全にも注力しています。

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスの考え方

コーポレート・ガバナンス*の基本は、迅速かつ透明性の高い意思決定により、社会からの信頼を高めることであると考えて、その実践に努めています。

*コーポレート・ガバナンス:企業統治。会社の違法行為を監視したり、少数に権限が集中する弊害をなくし、適正な事業活動の維持・確保を目的とした会社システムのあり方。

経営の意思決定、執行、監督の充実

取締役会を毎月1回定期的に開くほか、必要に応じて随時開催し、経営に関する重要事項を付議決定しています。業務執行状況についても取締役会で報告されます。

経営体制の効率化と迅速な意思決定を推進するため、2004年6月の定時株主総会で、業務の執行体制の強化を目的に、執行役員制度を導入しました。これにより、取締役会は経営の意思決定および業務執行の監督にあたり、執行役員は、担当業務の執行に専念する経営体制が確立しました。

監査役会の機能の充実

監査機能の強化のため、社外監査役2人を含めた4人の監査役が、取締役会や支店長会議等の重要な会議への出席に加え、事業所および子会社の往査などにより法令遵守や業務の監査を行っています。

内部統制システムの整備

適正な業務執行を確実にするため、内部統制システムをさらに拡充させるとともに、内外情勢・経営環境の変化に応じて随時見直しを行い、より適切な内部統制システムを整備していきます。

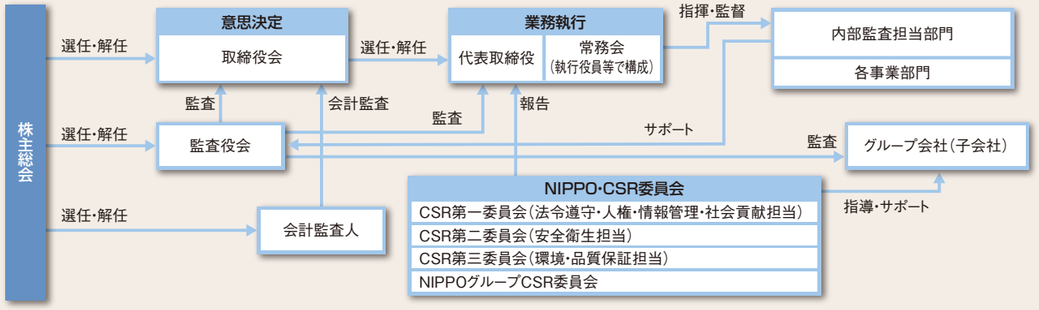
ステークホルダーへの情報開示の充実

ステークホルダー*の皆様に対して迅速で公平、かつ正確でわかりやすい企業情報の発信に努めています。開示方法は金融商品取引法および、東京証券取引所などの定める適時開示等に関する規則に則っています。このほか、当社ホームページなどでも適宜情報開示を行っています。

決算関連情報については、第2四半期決算および本決算発表後、アナリスト*やマスコミを招いて説明会を実施しています。新技術、新工法、話題となっている技術等については、マスコミ各社に適時情報提供しています。

*ステークホルダー:企業に対して利害関係を持つ人。当社の主なステークホルダーは、消費者・従業員・株主・債権者・取引先・地域社会。
*アナリスト:社会情勢や業界動向などを分析する専門家。

コーポレート・ガバナンス体制図



私のCSR　東日本管理支社　若林 未希子

私は管理支社で給与計算や社会保険に関する業務を担当しており、個人情報が含まれたデータを多く取り扱っています。不要な書類はシュレッダーで破棄する、給与関係帳票の印刷は専用のプリンターを使う、帰宅時は書庫に施錠をするなど、情報管理には注意を払っています。最近個人情報漏洩のニュースをよく目にしますが、そういったことが起こらないよう、取り扱っている情報の重要性を意識し、責任感ある行動を心掛けています。

CSRマネジメント

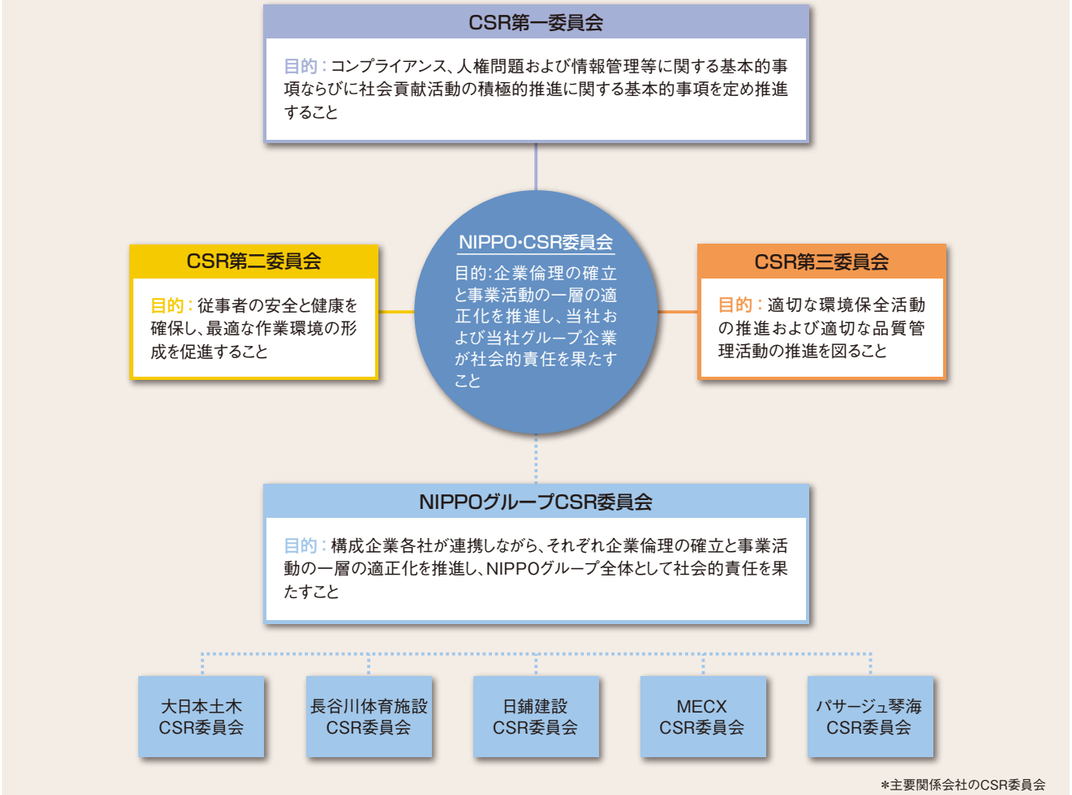
CSR体制

当社のCSR体制は、NIPPO・CSR委員会を最高意思決定機関とし、実施機関である3つの委員会に加え、グループ企業のCSR体制を統括するNIPPOグループCSR委員会で構成しています。

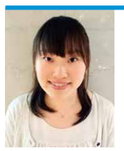
各委員会は、それぞれ全社委員会と本社・支店委員会を設置し、全社単位、本社・支店単位の方針を定めて活動しています。開催された委員会の協議内容は、社内ネットワークで公開することによって、全従業員のCSR意識向上に活用しています。

全社各委員会の活動目的等の概要は下図のとおりです。

CSR体制と各委員会の目的



*主要関係会社のCSR委員会



私のCSR　経理部　冨野 歩

私は経理部で決算開示書類の作成を担当しています。これは投資家の皆様に対し提供される情報で、開示前の情報漏洩には特に注意が必要です。開示書類の作成過程で使用するデータは、許可されたユーザー(経理部員)しか閲覧できないよう制限している文書管理システムにて保管・共有しています。また、離席する際はPC画面上のデータを閉じ、机上の書類も目に付かないようにすることなども心掛けています。情報管理の責任(リスク)を意識し、今後も細心の注意を払い業務に取り組みます。

コンプライアンスと品質保証体制

コンプライアンスの取り組み

潜在的リスクの排除を目的として、毎年全ての部署で遵法状況を点検し、改善すべき項目があれば業務改善を行っています。社内ネットワークを通じて、業務に関連する様々な遵法ツールを従業員に提供するほか、業務の一環として、研修や会議の場では日常的にコンプライアンスの議題を取り上げて意識の高揚を図るとともに、現業に従事する従業員全員が毎日、遵法スローガン「企業行動5つの誓い」(P.1を参照)を唱和しています。

情報管理体制

当社では、個人情報を含む機密情報の管理基準を明確にし、各企業情報の漏洩防止等の安全対策を講じることにより、情報管理に関する関連法令や東京証券取引所が定める上場諸規則等の遵守に努めています。

品質保証体制

品質方針

株式会社NIPPOは、確かなものづくりを通して、人と社会の生成発展に貢献します。

[そのために]

一、私達は、望まれる確かな製品を提供し、顧客・利用者の信頼を築く。
一、私達は、後世に評価される技を磨き、技の大切さを教え、伝える。
一、私達は、現状に満足せず、情熱と向上心をもって、継続的改善に挑戦する。

舗装土木・開発部門を例に、品質保証活動について以下、ご紹介します。

①審査機関による外部審査

2014年11月に、本社および3つの支店にて審査機関による外部審査(品質と環境を同日に実施する複合審査)を受けました。品質においては不適合事項0件、観察事項4件、環境においては不適合事項0件、観察事項8件がありましたが、2015年1月に認証の維持継続が承認されました。

②内部監査の実施

本支店および現業事業所全体の約3分の1について内部監査(計156件)を実施しました。内部監査で観察された指摘事項に対して、該当部署で不適合状態の処置および必要に応じた是正処置を実施しています。

③NIPPO事例研究発表会の開催

2014年1月23日に開催されたNIPPO事例研究発表会で、全国から選抜された13編が発表されました。第8回の今回も、品質を第一に考える当社の意識を具現化した発表に対して活発な質疑がなされました。厳正な審査の結果、発表された論文の中から最優秀賞を始め4人が表彰されました。

NIPPO事例研究発表会

④経営者(社長)による業務改善

経営者(社長)は、顧客満足情報と内部監査、品質目標管理などをもとに、業務改善につなげるための見直しを行い、社内規程の見直し・改善活動の完全実施など、必要な指示を行っています。

⑤本社による工事施工監査の実施

大型工事を対象として、個々の工事現場で実施している各種検査とは別に、社内検査(工事施工監査)を本社が直接実施しました(2014年度対象工事:93件)。

私のCSR　北海道支店　渡辺 美佳

私は支店総務グループで経理を担当しています。金融商品取引法や税法を遵守するために定められた会社のルールを常に意識するよう心掛けています。解釈を曲げて運用していないか、適正に処理して承認を受けているか、不明な点は都度クリアにする、など日常的な業務プロセスの確認がコンプライアンス上重要であると考えます。

安全管理

基本的な考え方

重機や車両による危険な作業を伴う当社事業では「人命尊重」を基本理念として安全衛生管理を実行しています。事故撲滅に向けて、安全作業の徹底と企業風土の醸成に努めています。

安全衛生管理方針

2015年度　安全衛生管理方針

[方針] 人命尊重を基本理念とし、全員参加で労働安全衛生マネジメントシステムを実行し、安全衛生管理水準の向上を目指す。
1.安全作業4つの誓い項目を遵守し、労働災害を防止する。
2.労働安全衛生法令及び安全衛生管理規程類を遵守する。

[目標] 1.重機・車両災害、転落・墜落災害、土砂崩壊災害、非定常時災害を防止し死亡災害「ゼロ」を達成する。
2.災害事故件数10%減。(過去3年間平均×0.9)
3.快適な職場環境づくりを推進し、健康の保持増進を図る。

2015年度安全衛生管理方針を全社中央安全衛委員会の審議を経て、決定しました。

2014年度の反省 2015年度の安全管理への取り組み

2014年度も「死亡災害ゼロの達成」というトップの強い意志のもと、全社で一丸となり、「安全作業4つの誓い」を確実に実行するとともに、重機・車両と人の分離を第一に実践し、誘導員の配置または監視員による立入禁止措置の監視を確実に行うことで、誤って稼働中の重機や車両に接近しないように指導を強化しました。その結果、4年ぶりに死亡災害ゼロを達成することができました。また、災害事故総件数でも目標に対して17%減、2013年度比29%減となりました。特に公衆災害は、オペレーター自身による地下埋設物および架空物の表示設置により目標比34%減、ドライブレコーダーの有効活用により交通事故が目標比42%減と、好成績を収めることができました。労働災害については、2013年度比10%減となりましたが、目標達成には至りませんでした。労働災害発生状況を分析すると、熱中症が32%、加害者がいない自分の不注意、ヒューマンエラーで発生する自損事故が48%を占めています。各現場に合った熱中症予防対策と自損事故防止対策をそれぞれが計画し実施する必要性を痛感しました。危険に対する感受性を高めるために、過去の災害事例等を繰り返し教育していきます。

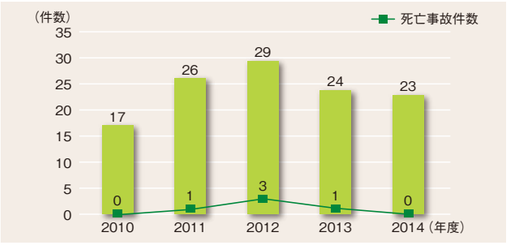
災害発生状況は次のとおりです。

度数率・強度率

		2013年度	2014年度
NIPPO(下請け工事含む)	度数率	0.58	0.58
	強度率	0.60	0.10
建設業	度数率	1.25	0.91
	強度率	0.23	0.07

度数率:100万延実労働時間当たりの労働災害による死傷者数で災害の頻度を表す。
強度率:1,000延実労働時間当たりの労働損失日数で災害の重さを表す。

過去5年の災害件数(休業4日以上、物損50万円以上)



2015年度も、①重機・車両と人の分離、②「安全作業4つの誓い」をさらに確実に実施することで、死亡災害ゼロを継続できるよう努めます。

また、災害事故総件数を減少させるため、2014年度実施した公衆災害および交通事故防止対策をさらに強化し、労働災害を減少させるために自損事故防止に努めます。

全社安全重点策共通項目

①重機・車両と人の分離の確実な実施
②(全社)特別管理リスクアセスメント「防止対策」の遵守
③ドライブレコーダーを活用した交通事故防止対策の確実な実施
④自損事故防止対策の確実な実施

上記4点を確実に実施するよう、全社一丸となって教育・指導を行い、目標達成に向け活動します。

NIPPO基本スローガン

『ルールと決めたことをお互いに守り、ゼロ災を達成しよう』

私のCSR　中国支店　戸田 勝昭

私は2014年度より、支店管内の国官工事の工事施工監査を担当しています。主に大型工事を対象とした工事施工監査を行うにあたり、法令遵守の点検および工事成績評定点のアップを目的に取り組んでいます。工事において無事故・無災害の完成はもとより、「確かなものづくり」を通して顧客のニーズに対応し、お客様に満足していただき信頼を築けるよう取り組んでいます。

環境マネジメントシステム

基本的な考え方　当社は限りある地球資源の有効活用と気候変動への対応について企業としての社会的責務であるという認識の下、事業において排出されるCO_2や産業廃棄物に関しては毎年計測を行い、年間の環境保全活動方針に沿って全社をあげて削減・リサイクルに向けた取り組みを行っています。

環境方針

環境保全活動の継続的改善に努め、「環境保全と経済活動の両立」する持続可能な社会の実現に貢献する。

1.環境法令、その他要求事項を遵守して、適正な事業活動を推進する。
2.環境と資源を大切にし、「地球温暖化対策」及び「循環型社会の構築」を基軸とした環境保全活動を推進する。
3.事業活動を通じて汚染の予防に努めるとともに、環境負荷の低減を推進する。

平成27年4月1日
株式会社 NIPPO
代表取締役社長 岩田裕美

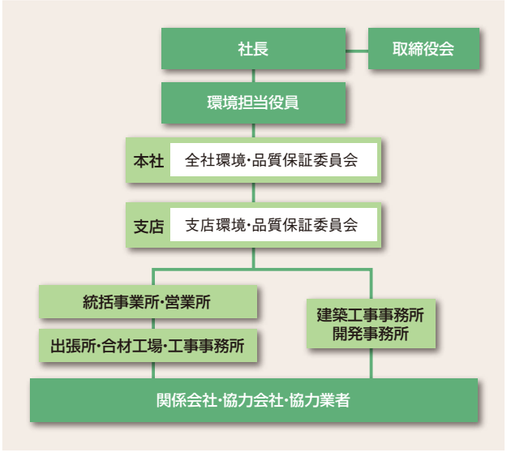
環境マネジメント体制

当社のCSRの中で、環境は最重要課題の一つです。

2015年度の環境方針・環境保全活動目標に基づき、全事業所が年間の環境保全活動計画を策定し、現業事業所は地域の特性に応じた活動を推進しています。

また、全社および支店の環境・品質保証委員会において、関係法令の遵守、公害の未然防止、環境保全の提案、環境活動の状況などを審議しています。

環境マネジメント体制図



保全活動の結果と今後の取り組み

全社のCO_2排出量は、売上高原単位においては17.9%削減となり、目標を達成することができました。

しかし、当社のCO_2排出量の約90%を占める合材部門では、2011年度比1.0%削減の目標（合材製造1t当たり）に対し6.4%増加となりました。CO_2排出量の少ない省エネ型バーナ設置（全国12工場）などにより、CO_2排出量の削減を図りましたが、東日本大震災に伴う電力会社のCO_2排出係数のアップを補うことができませんでした。今後も、CO_2排出量の少ない燃料への変更や省エネ型バーナの導入など、工場設備の改善を推進してCO_2排出量削減に努めます。

オフィス部門での、電気使用量の削減は2009年度比5.0%削減目標に対し、14.7%削減と目標を達成しました。また、紙の使用量の削減についても2009年度比4.0%削減目標に対し、15.6%削減することができました。

産業廃棄物の最終処分率については、0.85%以下を目標とし、結果0.45%と目標を達成しました。今後も「ゼロエミッション」に向けた取り組みを継続していきます。

2014年度は、環境技術の開発促進として1工法の開発を目標にし、その結果2工法を開発（パーフェクトクールU・低燃費舗装）。その工法を含め、環境配慮型工法の技術営業推進により、受注高100億円の目標に対して189.8億円の受注高を計上しました。

舗装・土木部門では、新たな目標として「連絡車のエコカー率の向上」を設定し、環境負荷の低減に取り組み、連絡車のエコカー率を2013年度比1%向上させる目標に対し、9.1%向上することができました。また、この取り組みとともに、アイドリングストップなどのCO_2削減活動を、今後も継続して推進していきます。

2014年度の目標と実績および2015年度の目標

◎ 100%達成　○ 80%以上達成　△ 60%以上達成　× 達成率60%未満

区分	目的	対象範囲（組織）	2014年度の目標	2014年度の実績	評価	2015年度の目標
地球温暖化防止対策	CO_2排出量の削減	全社（全部門）	—	総排出量　27.4万t-CO_2/年	—	—
			2009年度比　5%削減※1 （114.7t-CO_2/億円）	17.9%削減 （99.1t-CO_2/億円）	◎	2009年度比　6%削減※1 （113.5t-CO_2/億円以下）
		合材部門	2011年度比　1.0%削減 （合材製造1t当たりでの排出量削減）	6.4%増加 （35.55kg-CO_2/t）	×	2011年度比　1.5%削減 （32.9kg-CO_2/t以下）
		全てのオフィス （合材工場を除く）	2009年度比　5%削減※1 （2.08t-CO_2/億円以下）	5.5%増加 （2.31t-CO_2/億円）	×	2009年度比　6%削減※1 （2.06t-CO_2/億円以下）
循環型社会の構築	産業廃棄物の削減	全社（全部門）	最終処分率　0.85%以下 （ゼロエミッションの継続）	0.45%※2 （ゼロエミッションの達成）	◎	最終処分率　0.8%以下 （ゼロエミッションの継続）
		舗装・土木部門	最終処分率　0.5%以下	0.39%	◎	最終処分率　0.5%以下
		合材部門	最終処分率　2.8%以下	0.75%	◎	最終処分率　2.8%以下
		建築部門 （解体工事を除く）	10kg/㎡以下 （建築面積当たりの最終処分率）	6.5kg/㎡	◎	10kg/㎡以下 （建築面積当たりの最終処分率）
環境負荷の低減	環境技術開発の促進	全社	1工法以上	2工法	◎	1工法以上
	環境配慮型工法※3の技術営業推進		100億円	189.8億円	◎	100億円
	環境教育の推進		環境教育の実施　1回以上/事業所	実施率　99.1%※4	○	環境教育の実施　1回以上/事業所
	環境コミュニケーションの推進		CSRレポートの発行（9月）	CSRレポートの発行（9月）	◎	CSRレポートの発行（9月）
	連絡車のエコカー率の向上※5	舗装・土木部門	2013年度比　1%向上 （51.5%）	2013年度比　9.1%向上 （59.6%）	◎	2014年度比　1%向上 （60.6%）
	電気使用量の削減	全てのオフィス	2009年度比　5.0%削減	14.7%削減 （10,161MWh※6）	◎	2009年度比　6.0%削減
	紙使用量の削減		2009年度比　4.0%削減	15.6%削減 （158.5t）	◎	2009年度比　4.5%削減

※1　2014年度より、CO_2排出量削減活動目標を省エネ法の基準に合わせることとしました。
（省エネ法の基準では、「継続的に事業活動を行う工場等」に該当しない工事現場や仮設展示場等は、CO_2排出量削減活動の対象外となります。）
※2　2012年度の建設副産物実態調査結果（国土交通省）での最終処分率は4.0%（発生量 7,269万トン）でした。
（最終処分とは再資源化やサーマルリサイクルされないで、単純焼却および埋立処分された量）
（最終処分率＝最終処分量/総排出量…全て重量換算）
※3　環境配慮型工法とは「CO_2排出抑制、路面温度上昇抑制、省資源・リサイクル、土壌浄化に資する工法」とし、具体的には「土壌浄化」および「遮熱性」「保水性」「エコ商品」「エコファイン」「表面処理」「クレイ系」「木質系」「天然芝」「FRB工法」「スタビ工法」の11工法を対象としています。
なお、「FRB工法」「スタビ工法」は2013年度から追加した工法です。
※4　実施率＝1回以上実施事業所／対象事業所
※5　舗装・土木部門では、「連絡車のエコカー率の向上」により、環境負荷の低減（間接的にCO_2排出量の削減）を図ることとしました。
※6　1MWh=1,000KWh

私のCSR　東北開発事務所　**中島 洋子**

地域清掃と献血協力の2つが、東北支店事業所で主に行っている社会貢献活動です。仙台市の「まち美化サポーター」プログラムに登録して、毎月初めの安全朝礼後に参加者がNIPPOジャンパーを着用、事業所周辺道路と公園の清掃を行っています。継続して実施することで、街の美化や安心して遊べる公園を保つお手伝いになればいいと思います。また献血に協力できることは元気なあかし、健康に留意して社会に貢献していきます。

私のCSR　東日本管理支社　**阿部 博子**

私たちの事業所は、西新宿クリーンデー（清掃ボランティア）の会に協力しています。月に1回、同じビルに入居している方々と協力しながら、主に新宿中央公園の周辺の清掃活動を行っています。時には、道を聞かれたり、「ご苦労様」というお声をいただくなど、地域住民の方々との交流もあります。また、この会の活動を通し、新宿中央公園には「エコギャラリー新宿」という環境学習情報センターがあることを知ることができました。次回は個人でプロジェクトに参加したいと思っています。

舗装事業における環境保全活動

基本的な考え方　舗装工事やアスファルト合材の製造事業では、様々な工程で排出物や廃棄物が生成されます。当社は製造工程や流通などにおける環境負荷低減や資材リサイクルを促進することが、当社の社会的責任を果たすことだと考えています。

環境型リサイクルへの取り組み

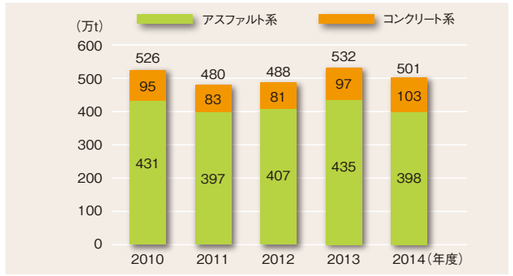
アスファルト合材工場では、資源の有効利用を図るため、建設副産物や他産業副産物のリサイクルに取り組んでいます。

建設副産物のリサイクル

当社は1970年代前半から、当時としては珍しかった「アスファルト舗装リサイクル技術」の研究に取り組み、現在の技術やシステムをほぼ確立して全国に展開しました。現在、全国に157カ所のアスファルト合材工場を保有していますが、このうち150工場でアスファルトやコンクリートのがれき類（建設副産物）を受け入れ、157工場で積極的に骨材として再利用し、再生合材、再生路盤材として製造・販売しています。

再生合材の製造比率は、2005年以降70%を超えており、再生資源の有効活用を推進しています。

建設副産物受入量の推移



他産業副産物のリサイクル

1981年からは、家庭から出る一般廃棄物の焼却灰を処理して発生するゴミ溶融スラグをアスファルト舗装材料の一部として有効利用する研究を開始し、その技術を確立しました。

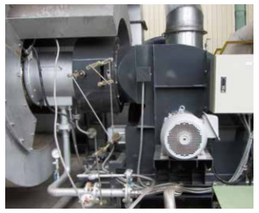
現在では、こうした取り組みを核に、全国の工場で、アスファルト舗装をその品質を低下させることなく、他産業から出る副産物を適正に処理して舗装材の一部に有効利用するなどの積極的な活動を行っています。

アスファルト合材工場での環境配慮

アスファルト合材工場では、化石燃料や電力などを使用してアスファルト合材などを製造していますが、周囲の環境に悪影響を及ぼさないよう、細心の注意を払い、対策を行っています。

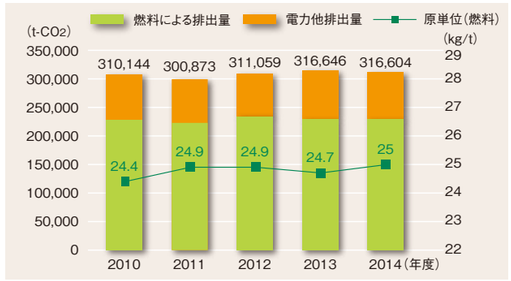
二酸化炭素（CO_2）排出量の削減

アスファルト合材の製造に伴って生じるCO_2の排出量を削減するため燃料を重油類から、都市ガスや灯油等へ徐々に切り替えを進め、省エネルギー型の設備や機器類も積極的に配備しています。2014年度末現在、都市ガス化した合材工場が14カ所、省エネ型の高効率バーナ（ハイブリットバーナ：空気比率が低く、広範囲の燃焼制御が可能）を導入した合材工場が74カ所となっています。



熊谷合材工場：
環境対策として、都市ガス用のハイブリットバーナに更新しました。

合材工場CO_2排出量の推移



燃料使用によるCO_2排出量の推移（全社）

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
CO_2（トン/年）	226,955	224,043	236,551	232,915	216,654
原単位（kg/合材トン）	24.4	24.9	24.9	24.7	25.0
工場数	157	158	157	157	157

2014年度は製造数量の落ち込みのため排出量は減少しましたが、操業度が悪化したため原単位の排出量が改善できませんでした。

大気汚染対策

工場周辺の空気を汚さないよう、定期的に窒素酸化物や硫黄酸化物、ばいじん等の排出量を測定・管理しています。また、法令規準より高い性能の集じん機を整備し、製造工程の様々な箇所に、粉じんを飛散させないような設備を設けるなどの対策を行っています。

アスファルト合材工場からの大気汚染物質排出量　（トン/年）

種類	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
窒素酸化物（NO_x）	96.8	114.0	112.2	104.5	103.1
硫黄酸化物（SO_x）	125.1	91.7	124.5	103.9	104.6
ばいじん	57.0	50.5	46.1	65.4	39.9

上位50工場のサンプリングからの推計で、サンプル率は約60%です。

復興支援地での環境対策

東日本大震災において大きな被害を受けた岩手県宮古市の宮古湾近く、金浜地区に新たにプラントを完成させました。

復興事業によるアスファルト合材不足が見込まれることから、製造能力を従来の2倍（120トン/h）に強化し、安定的な合材供給により復興を支援しています。また、建設廃材をリサイクルする設備も従来の2.5倍（100トン/h）に強化し、十分需要に対応できるものとなっています。騒音や振動、粉じんを出さないなど、周辺環境に配慮したプラントとなっている点も特徴です。今後も環境対策型設備の導入を図るなど、環境整備・環境投資を続けていきます。

宮古合材工場（宮古アスコン）：
プラントやリサイクル設備を全閉型のシェルタータイプとし、2014年度に環境整備を図りました。

舗装現場での環境配慮

舗装工事の際の主な環境負荷には、施工機械等による騒音、排出ガスによる大気汚染、CO_2、産業廃棄物の排出などがあります。

施工機械の騒音・排出ガス対策

舗装工事に使用する施工機械を順次、環境負荷の少ない排出ガス対策型・低騒音型に切り替えています。2014年度までに、保有機械の90%を排出ガス対策型に、90%を低騒音型に切り替えました。対策済みの施工機械は主に規制対象地域で使用していますが、対象地域以外でも積極的な使用を推進しています。

施工機械の環境対策整備状況　（台）

	2012年度			2013年度			2014年度		
	保有	対策	率(%)	保有	対策	率(%)	保有	対策	率(%)
排出ガス対策型	95	84	88	101	91	90	97	87	90
低騒音型	205	182	89	206	188	91	197	176	90

CO_2の削減

施工機械や資材を運搬するダンプ、トラック等のアイドリングストップを推進しています。また、施工機械は更新時に低燃費型に切り替えています。

産業廃棄物の排出管理

全ての部署、事業所で発生する産業廃棄物の分別を徹底するとともに、部署ごとに排出量を種類別に管理し、再資源化・省資源化計画を立てて実行しています。産業廃棄物量に占める最終処分量の割合は2010年度が0.72%、2011年度が0.90%、2012年度が0.46%、2013年度が0.39%、2014年度が0.45%と、確実に低減しています。

輸送行程での環境配慮

輸送行程での主な環境負荷は、ダンプ、トラック等の燃料消費に伴うCO_2の排出と騒音です。

アスファルト合材の材料となる骨材の運搬は、自動車輸送から海上輸送へ切り替えを進めており、一定量（全骨材使用量の約5%）を海上輸送にて行っています。2010年度28万トン、2011年度26万トン、2012年度28万トン、2013年度20万トン、2014年度18万トンの骨材を海上輸送により受け入れています。また、ダンプトラック使用時には、アイドリングストップやエコドライブに努めるよう、運送会社を指導しています。

私のCSR　南九州統括事業所　竹上 司

南九州統括事業所は鹿児島市の錦江湾に面した埋立地にあります。ボランティア活動を通して地域の美化に貢献し、企業としての存在価値を高めるため、出張所と合同で事業所周辺道路（延長1.4km）の清掃作業を、毎月従業員全員で行っています。今後も、空き缶などの茂みへのポイ捨て防止のための、路肩の草刈りなどの活動に取り組んでいきます。

私のCSR　北海道支店　志村 昌俊

私たちの事業所では、社会貢献の一環として近隣小中学校のグラウンド整備を毎年行っています。10年前に1校から始めた活動も現在では、小学校2校・中学校2校に増え、沢山の学校関係者や生徒に喜ばれています。こうした機会に、重機を間近で見てもらい、建設業に対するイメージアップや、「ものづくり」に興味を感じてもらえるように心掛けています。公共工事を行う私たちは、日頃から感謝の気持ちを忘れずに、積極的に社会貢献を行うことで、地域に根差した事業所を目指しています。

舗装事業における環境技術

基本的な考え方

舗装事業では、事業活動の中での環境負荷低減だけでなく、材料・製品・舗装工法を通じた環境負荷低減にも力を入れるため、新しい環境技術の開発に努めています。当社は長年の取り組みで培われた独自の技術力を活かし、人・都市・地球環境に配慮した技術開発を進めています。

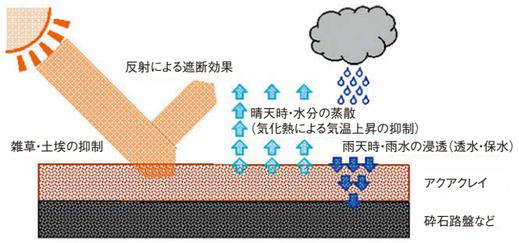
環境舗装・資材のラインナップ

水をかけるだけの簡単土系舗装「アクアクレイ」

「アクアクレイ」は固化材をプレミックスした良質な土系材料を敷きならし、水をかけるだけで仕上がる土系舗装です。材料には高品質な砕砂と粘土をプレミックスしていますので、圧縮強度などの品質が安定しています。また施工では材料を敷きならした後の転圧が不要ですので、ローラーが入らない狭小箇所でも施工できます。

アクアクレイは高い圧縮強度があるので雑草の発生を抑制する効果があるのに加え、土としての自然な透水力と適度な保水力を備えています。そのため、路面温度の上昇抑制効果も期待できます。夏季における路面温度の測定事例では、アスファルト舗装が64.3℃のとき、アクアクレイは39.8℃と、24.5℃の温度差があったことを確認しています。

アクアクレイによる舗装



アクアクレイの様々な性能

私のCSR　四国支店　高畑 浩二

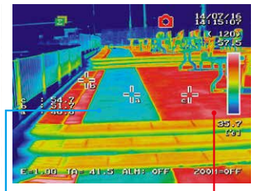
当支店の環境保全活動として、業務用自動車にエコカーを順次導入しています。また、冷暖房の室温設定、不要な照明のこまめな消灯、昼休みの消灯などによる電気使用量の削減、ミスコピーの裏面の利用、会議におけるプロジェクター使用による紙資料の配付削減なども行っています。地道な活動ですが、支店全体で環境負荷軽減に取り組んでいます。

全天候型ウレタン弾性系遮熱性舗装「パーフェクトクールU」

「パーフェクトクールU」は水系アクリルウレタン樹脂を使用した全天候型のウレタン弾性系遮熱性舗装です。ベースのゴムチップ層と遮熱コート層から構成されます。第一に、ゴムチップ層による特長として、クッション性があり、水溜りができにくく、滑りづらい表面となるので人に優しい舗装です。周囲の景観や用途を考慮したカラー化が可能です。第二に、表面の遮熱コート層による特長として、舗装表面温度の上昇を抑制することで足下の熱環境を改善できます。プールサイドに適用した白色系の「パーフェクトクールU」の適用事例では、一般的な明色ウレタン舗装と比べ約10℃の路面温度の上昇を抑制する効果が得られました。これらの特長により、屋外のプールサイドや公園などの遊具施設周り、多目的広場、ジョギングコースなど幅広く活用できます。

一般的なパーフェクトクールUの断面　　衝撃吸収層を追加した断面

東武動物公園スーパープール完成写真


東武動物公園スーパープールサーモ写真

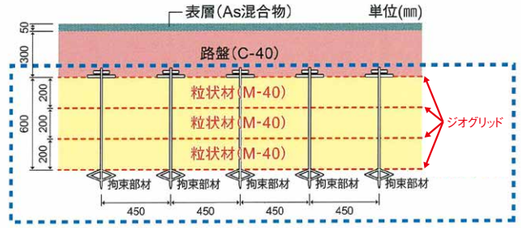
40.8℃（パーフェクトクールU）

54.7℃（一般的なウレタン舗装）

大規模地震時に路面の段差発生を抑制「HRB（Hazard-Reducing Bed）工法」

大規模な地震が発生すると、道路に大きな段差が発生し、初動が重要となる人命救助や緊急物資の運搬を円滑に行えないなど、車両の通行が困難となる場合があります。地震時におけるアスファルト舗装の崩壊と路面の段差発生を抑制し、地震発生直後の道路の車両通行を確保することを目的に開発されたのがHRB工法です。HRB工法は、舗装の下部（路床上部）に高強度の面状補強材（ジオグリッド）と、拘束部材を用いて強化した粒状砕石層を舗装の下部に構築します。実物大の実証実験により、強制的に地盤を55cm沈下させても自動車の走行が可能であることが確認されました。最大60cm程度の地盤の不同沈下に対応することが可能であり、より安全な道づくりへの貢献が期待される工法です。

55cm段差での走行が可能（実物大実験）



HRB工法の断面例

私のCSR　中部支店　江尻 誠

当支店では、休憩時の消灯・室温28℃設定が皆の協力のもと日々行われています。また、一般廃棄物の分別徹底や裏紙の再利用推進も積極的に行っています。これらは小さなことですが、視覚的に環境を意識させられます。私は最近出勤時にエレベーターを使用せず8階の事務所まで階段を登り、節電と健康に心掛けています。

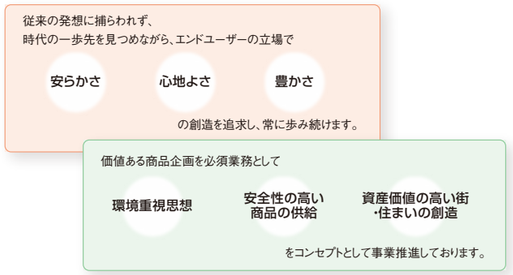
戦略事業における環境・安全配慮

基本的な考え方　当社は戦略事業として「不動産開発事業」「建築事業」「土壌浄化事業」を展開しています。いずれの戦略事業でもNIPPOらしい独自の環境・安全面の対応を行うために、様々な技術開発や取り組みを行っています。

不動産開発事業における環境・安全配慮

不動産開発部門では、環境と安全に配慮し、永く安心していただける住環境の提供を柱とした不動産事業を全国で展開しています。

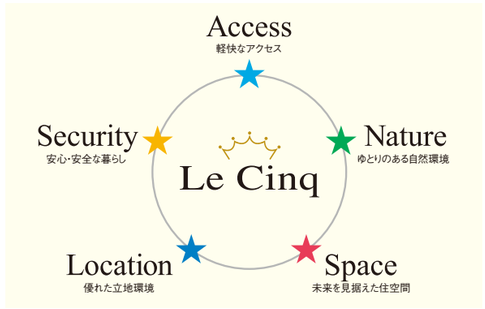
不動産事業推進、展開ポリシー



マンション分譲事業

マンション事業は、5つの価値を重視し、「ル・サンク（Le Cinq）シリーズ」として展開しています。

5つの価値を追求するル・サンクシリーズ



地域特性を把握し、未来を見据え、敷地分析、建物計画、吟味した設備仕様を整えた「資産価値の高い」マンションの開発供給に取り組んでいます。現在、マンション供給総戸数は6,000戸を超え、三大都市圏を中心に札幌、盛岡、仙台、広島、福岡、長崎、鹿児島、那覇の主要都市にて事業を展開しています。

再開発事業

全国の主要都市で魅力ある街づくりを推進しています。「安全で安心な街づくり」「地域の歴史・文化を活かした美しい街づくり」「活力とゆとりのある暮らしを実現する街づくり」を目指しています。再開発事業は、既成市街地を計画的に整備し、都市機能の更新や環境の改善を図る事業です。

東京大崎駅周辺、名古屋納屋橋、広島駅南口、沖縄那覇農連市場、東京赤坂一丁目など数多くの再開発事業に取り組んでいます。

広島駅南口Cブロック外観図

名古屋納屋橋外観図

基本計画仕様書による確かなものづくりの推進

マンション事業では、ル・サンク基本計画仕様書を基準に事業を推進しています。仕様書は、基本性能・設計基準をベースに、環境に配慮しつつ災害に強いものづくりを目指し、法改正・環境変化に対応すべく、毎年見直し・改訂を行っています。2014年度は「エネルギー削減のための対策」として下記の取り組みを実施しました。

①一括受電の採用　②節水型トイレの全戸採用
③照明のLED化　④スマートマンション（見える化）の採用

芦ノ湖スカイラインに「メロディペーブ」が完成

100%子会社である株式会社芦ノ湖スカイラインが運営・管理する自動車専用有料道路芦ノ湖スカイラインに当社の特殊工法である「メロディペーブ」の第2弾目が完成しました。今回は第1弾の「富士の山」に続くエヴァンゲリオンのアニメ曲「残酷な天使のテーゼ」です。「メロディペーブ」はスピード抑制等環境に配慮した当社特殊工法の一つです。

私のCSR　本社建築部　**中村 瞳**

新規入場者は事故を起こす確率が高いと言われております。当作業所では新規入場者教育に重点を置き、資格は無論、作業者一人ひとりの健康状態なども確認しています。また、現地KY（危険予知）の意義を理解させ、危険要因に対する対策を一緒になって考え、日々、事故防止に取り組んでいます。

建築事業における環境・安全配慮

建築事業では建物の計画・設計段階から環境負荷低減に取り組み、施工段階では産業廃棄物・CO_2排出量の削減、省力化工法採用の推進等、具体的な数値目標を設定し環境保全活動の強化を図っています。

設計段階での取り組み事例

計画・設計段階では建築環境総合評価システム制度を利用した環境配慮設計として、太陽光発電、壁面・屋上緑化、高断熱化、人感設備、LED照明採用および建物のライフサイクルCO_2排出削減等を推進しています。

また、技術開発ではアルミブレース耐震工法の技術認定を取得しました。

緑化施工事例

高出力型LED照明採用事例

システム建築施工事例

施工段階での取り組み事例（省力化工法）

建築現場での取り組みとして、プレキャスト工法、ユニット工法などの省力化工法の採用を推進しています。採用することにより、産業廃棄物削減、CO_2削減、品質向上、安全確保を図るとともに、技能工不足への対応にもつながっています。

鉄骨・鉄筋先組工法事例

大判型枠工法事例

環境事業（土壌浄化事業）における取り組み

土壌浄化事業では、土壌環境に関する課題をお持ちのお客様からご相談を受けた場合、トータルエンジニアリングとして、その調査、分析、汚染の評価、対策計画、工事および監視に至る一貫したシステムサービスをお客様の立場に立って取り組んでいます。

当社は土壌汚染対策法の施行前から土壌浄化事業に取り組んでおり、2015年3月末現在、土壌対策工事実績1,133件、土壌調査実績2,444件の実績があります。

当社が保有する工法の中から、敷地面積、工事期間、周辺環境など様々な要素を考慮し、環境・安全に配慮した設計施工を行っています。

土壌調査における環境・安全配慮

土壌調査では、土壌汚染対策法に定める特定有害物質が土壌、地下水中にどのくらい含まれているかを調査します。採取する土壌や地下水には汚染物質が含まれている場合があることから、周辺環境へ汚染を拡散させないことや、汚染物質を作業者等へ曝露させないこと等、環境や安全に配慮した計画を立案し、施工しています。

特にボーリング調査では、地表面下10m程度まで土壌を採取する場合があり、汚染物質の性質や地層の状況等に応じ、施工方法を検討し、例えば上部の汚染物質が地下深くに拡散しないように掘削時にケーシングパイプを用いることや、土壌採取後の掘削孔の埋め戻しに固化材を用いること等、周辺環境へ十分に配慮しながら施工を行っています。

施工条件に応じた環境・安全への細やかな配慮を怠らず、周辺住民やお客様に安心をご提供します。

ボーリング調査

私のCSR　西日本管理支社　**伊豫（いよ） 菜穂子**

私は労務関係の仕事を担当しているので、日頃から個人情報が入った重要書類を多く扱っています。そのため、重要データを含むファイルにはパスワードを設定、席を離れるときは大事な書類を机上に放置しない、個人情報の印刷は必要最低限にする、印刷したプリントは速やかに取りに行くなどに気をつけています。毎日個人情報を取り扱っているので、慣れて惰性で扱わないよう、日々緊張感を持って仕事をしています。

お客様の信頼を得るために

基本的な考え方 お客様満足の実現とお客様からの信頼を得るために、品質の高い製品を供給しています。また、当社の技術力をPRし、お客様との関係を深めていくことに努めています。

お客様満足を実現するために

お客様満足の実現のためには、お客様の困り事やニーズの的確な把握と原因の分析が欠かせません。原因分析により困り事への対応方法が変わってくるためです。利用者の不満や不安をお客様窓口とのコミュニケーションの中から分析し対策を立てていくことが必要です。きめ細かなコミュニケーションにより、施工の時期、条件、品質、近隣の皆様への配慮などを施工部署と共有し、見積もり、設計、施工の各段階に確実に反映させるなど、お客様満足の実現に向けた取り組みを進めています。

感謝状

株式会社NIPPO四国支店 様

貴社は平成26年12月5日から翌6日に発生した四国支社管内高速道路における記録的降雪に際し徳島自動車道川之江東ジャンクションから井川池田インターチェンジ間の除雪作業に迅速かつ積極的に協力し通行止め時間の短縮に多大な貢献をされましたよってその功績を称えここに感謝の意を表します

平成27年4月1日

西日本高速道路株式会社四国支社

支社長 中根 正治

昨年暮れの大雪に際し除雪作業に協力し、西日本高速道路（株）より感謝状をいただきました。

確かなものづくりのために

お客様による完成検査、引き渡しに至るまでの各段階で様々なチェックを行います。施工の各段階での、品質検査、結果の整理・確認を行い、不良原因の早期発見・排除を進め、品質の確保に努めています。社内で完成検査を行い厳重なチェックをした上で、お客様の完成検査を受けています。そうすることでお客様が満足する品質を提供できる体制を整えています。

利用者目線でのものづくりのために

当社が施工する施設は建設後多くの方々に利用されます。“歩行者が少しでも歩きやすい道を”というニーズに応えたものとして歩道の透水性舗装や遮熱舗装があり、交通事故対策として排水性舗装やスピードセーブ工法等があります。また工事に伴う道路通行止めの時間短縮を図るための工法や材料の開発など、最終的な利用者の利便性を追求しています。

当社の建設物の利用者は当社の得意先にとっては「お客様」となります。最終的な利用者の利便を図ることが当社への得意先からの信頼を高めていくものと考え、事業を進めています。

人工芝を用いた岩手県営運動公園ラグビー場

技術力と技のPRのために

当社の技術力と技をPRするコミュニケーションツールとして、ニッポ・ニュースやホームページがあります。ニッポ・ニュースは当社が持つ様々な工法に関する情報を掲載したもので、年4回発行し、お客様にお届けしています。タイムリーな施工実績の紹介が好評を得ています。当社ホームページ「技術情報」の「問い合わせフォーム」を通じてお寄せいただくご質問・ご要望は、2013年度が253件、2014年度は260件でした。ニッポ・ニュースは、ホームページよりご覧いただけます。

URL http://www.nippo-c.co.jp/

私のCSR 群馬統括事業所 乾 祥一郎

私は統括事業所の民間営業に従事しています。営業している中で、お客様の機密情報を扱うこともあり、その際には、機密保持契約を結び、社内での情報共有も最小限に留めることを実施しています。その情報に関わる人の意識が重要であると考え、情報管理には常に細心の注意を払っています。

従業員とのかかわり

基本的な考え方 従業員は企業活動の基盤であり従業員の働きがいや成長なくして企業の成長はない、という認識に基づき、全ての従業員がその能力を十分に発揮できる職場づくりや人材育成に取り組んでいます。

従業員一人ひとりがやりがいのある職場をつくること、社会的信頼の維持・向上を図るため人権問題などに関する基本的事項を推進することをCSRの柱の一つとして位置づけ、活動に取り組んでいます。また、能力開発、資質の向上のための従業員教育を充実させ、社会に誇れる従業員の育成を図ります。

労働環境整備の推進

建設産業においては、天候などの自然環境や交通事情などにより、労働時間が不規則となる傾向があります。このため不定期に過重労働になる場合があり、健康障害防止対策の徹底が求められます。こうした問題に対して、労使で構成する労働時間検討委員会にて対応策を検討し、実施しています。過重労働による健康障害防止対策としては、疲労蓄積度セルフチェックを実施し、必要に応じて保健師の面談や医師の面接を行っています。また、労使共通の認識を得られるよう各支店の労使懇談会などで話し合いの場を設け、より良い労働環境の実現に向けて努力しています。

健康増進（心とからだ）

従業員の健康管理は、労働安全衛生法に則した定期健康診断を基本として、保健師の指導やオプション健診を取り入れるなど、きめ細かな健診に配慮しています。健康障害防止対策として、定期健診受診率100%、再検受診率95%以上を目標とし、健康障害発生誘引者にはフォローするなど、安全配慮義務に努めるとともに、従業員の自己保健義務意識の向上を図っています。メンタルヘルスについては、対応の手引きを周知するなど、今後も従業員の心身両面にわたる健康づくりと、従業員を支える家族の健康管理に配慮していきます。

高齢者・障害者雇用の推進

健康で、働く意欲のある定年退職者に、「生涯現役」として活躍していただくため、満65歳までの再雇用制度を導入しています。また、障害者の雇用については、全国の支店（11カ所）ごとに法定雇用率（2.0%）の達成を目標に定め、2015年6月1日現在の雇用率は2.11%となっています。

人権問題の啓発活動

人権問題に対する理解を深めるため、従業員への啓発活動を推進しています。今後も研修などを通じ、従業員の意識向上を図っていきます。

従業員教育

CSRの徹底を図るために、本社部門連携研修を実施しています。従業員がCSRの重要性を認識し、日常業務で確実に実践することにより企業価値を高めることを目指します。

ワーク・ライフ・バランスの実現

政府は家族や地域の大切さについての理解促進を図るため、「家族の日（11月の第3日曜日）」などを定めており、当社はこの国民運動に積極的に協力しています。主な施策として、「家族の現場見学会」「ノー残業デー」などの実施を図っています。また、休日確保を労使の重要課題として認識しており、「日曜日の全閉所および第2土曜日の統一閉所」運動を6月と11月を強調月間として推進している他、実休務日数（法定内外の休日・休暇で完全に休んだ日）を年間82日以上確保することで総労働時間の短縮を図り、仕事と生活の充実の実現に向け取り組んでいます。

家族の現場見学会

私のCSR 九州支店 為房 智香

当社では、仕事と子育ての両立が可能な働きやすい環境をつくることで、従業員全員がその能力を十分に発揮できるようにするため、次世代育成支援対策の推進をしてきました。私も2004年に第一子を、2007年に第二子を出産し、産休後の数カ月間育児休暇を取得後、職場復帰しました。今年で子どもたちは小学校5年生と3年生になりますが、これからも仕事と子育てを両立して頑張っていきたいと思います。

社会とのコミュニケーション

基本的な考え方 全ての事業の基盤はお客様が住む地域社会にあります。当社では、地域社会とのコミュニケーションの機会を大切にし、災害復旧支援から教育・スポーツ振興まで様々な形で地域社会に貢献していきます。

災害復旧支援活動

当社では、災害時のインフラ復旧などの重要な役割を社会から期待されていることを深く認識し、長年培ってきた土木技術と全国の事業所網を活かして、地震をはじめとする自然災害が発生した場合には、復旧支援体制を組んで、いち早く現場に駆けつけます。

人命救助・消火など緊急車両の通行や人員・援助物資の輸送など、災害時の「道路復旧による通行の確保」は、極めて重要です。当社は、地元自治体等と連携して、全力で道路の復旧にあたり、一日も早い復興を支援します。

事業継続計画（BCP）は国土交通省関東地方整備局（首都圏直下型地震）の他、同省近畿地方整備局からも認定を得ており、今後も訓練等を通じてさらに見直し、充実を図っていきます。

社会貢献活動

スポーツ振興への取り組み

当社は、「ツアー・オブ・ジャパン」「ツール・ド・北海道」「ジャパンカップ」などの自転車ロードレース競技への協賛と「日本鋪道レーシングチーム」を前身とする「Team NIPPO」への支援を行い、20年以上に渡って自転車競技の振興をお手伝いしています。2014年からは2020年を見据え、ナショナルチームへの支援も行っています。

2014年の「Team NIPPO」の主な大会成績は次のとおりです。同チームは世界での活躍を視野に入れた国内最上位のチームです。

ツアー・オブ・ジャパン	個人総合2位、個人総合ポイント賞
ジャパンカップ	ロードレース個人3位、山岳賞
ツール・ド・北海道	団体総合優勝、山岳賞
ツール・ド・コリア	総合ポイント賞

Team NIPPO

この他、社内運動部として剣道部は各種大会で連続入賞、テニス部は関東実業団リーグで活躍するなど、スポーツ振興に取り組んでいます。

剣道部

社会・地域コミュニケーション

当社は、アスファルト合材の販売数量に応じて、売り上げの一部を「世界の子どもにワクチンを日本委員会」に寄付する独自の取り組みを行っているほか、スポーツ、学術・研究をはじめ国際交流等の寄付を通じて、社会の期待に応えています。

また、全国400以上の事業所では、地域の祭礼や町内会・子ども会等の交通安全、防犯活動等のイベントに従業員が積極的に参加するとともに、多くの事業所で、独自の清掃・環境整備活動を自主的に実施しています。

岩手での清掃活動

未来を担う子どもたちとのふれあい

上記のスポーツ振興の一つとして、他企業の剣道部と一緒に中学生招待試合を行っています。2014年は160人の女子中学生を迎え、合同稽古、学校の垣根を越えた混成チームによる試合を行うなど、盛大に執り行われました。

当社横浜合材工場では、毎年東京都市大学附属中学校の3年生を迎え入れ、同校の「キャリアスタディ」に協力しています。これは中学生が様々な企業を訪問し、社会で働くことの意義や厳しさなどについて、身をもって体験する同校のプログラムです。当社は同様に大学生、高等専門学校生のインターンシップ、小・中学生の就労体験などの教育プログラムにも積極的に協力しています。

合材工場見学

また、課外活動ではありますが、栃木県壬生中学校美術部に当社栃木合材工場の外壁をキャンバスとして、他に具材を提供し、高さ2メートル、横幅50メートルの巨大壁画を作成いただきました。

同校の美術部員からは「道路の横なのでよく見える。たくさんの方に見てほしい。」など、自分たちの作品の完成度に満足しているコメントをいただき、達成感に満たされている様子がうかがえます。巨大壁画は道路に面しており、通行人の方にも自由に見ていただけるようになっています。

合材工場壁画

当社はこういった活動を積極的に応援することが、子どもたちの成長の糧となること、当社への理解を深めていただく一助になることと願っています。

当社のホームページでは「キッズサイト道づくり探検隊!」を設け、クイズなどを通して当社の主力事業である道路建設について楽しく身近に学ぶことができます。

URL **http://www.nippo-c.co.jp/kids/index.html**

また、同サイトに登場する当社のマスコットキャラクター「ミッチーくん」は「Team NIPPO」の応援会場などで会うことができます。

私のCSR 東北支店 早坂 俊之

40歳を過ぎ、毎年実施している健康診断の結果が気になるようになりました。これまでのところ要再検査・要治療はありませんが、ここ数年は悪玉コレステロールの数値が高くなってきていることが気になり、バランスの取れた食事と節酒を心掛けるようにしています。また、休日には子どもと一緒に適度な運動を始め、生活習慣の改善にも努力しています。

私のCSR エイ・エックス（株）出向 金井 裕子

「行ってきます。」と言って出勤してきた人を同じ身体のままでまた帰宅させること。これが、安全の大きな目標だと思っています。このことのために、ルールと決められたことを守り、手間を惜しまずの安全対策と行動がとられているのだと。指差呼称の「指差し」という動作は難しいことではありません。しかし、いつでも必ずとなると努力と意識が必要な行動となります。無事で過ごせることの有難さを周囲の人に感謝し、いつも安全を意識し行動していきたいものです。

当社では、CSR活動を一層充実させるため、社内外ステークホルダーの声を重視しています。2014年度レポートではアンケートに対して読者の皆様から計638件のご回答・ご意見をいただきました。
このページでは、いただいたご意見・ご質問のいくつかについて、当社の考えや取り組みを回答いたします。

Q 毎年のように各地で自然災害が発生していますが、NIPPOならではの復旧事例などはありますか?(従業員)

A ここでは、広島県八木・緑井地区での災害復旧工事をご紹介します。同工事では、八木・緑井地区に発生した土砂災害において、堆積した土砂の搬出および破損した道路をいち早く復旧させ、地域住民の皆様のライフラインを迅速に整備しました。

現場体験談 災害復旧工事を担当して(中国支店　長崎 真也)

2012年8月20日未明に発生した集中豪雨により、見慣れた八木・緑井地区の風景はその姿を一変しました。土石流により倒壊した家屋、二階の高さまで堆積した土砂、瓦礫などにより見分けがつかない道路。災害復旧工事の担当となった私が直面した状況は、かつて経験したことのない壮絶なものでした。資機材すらまともに調達・搬入が困難な状況下にて発注者と協議を重ね、土砂や瓦礫の除去作業から始まり破損した道路の復旧を完成するに至るまで、多くの困難に見舞われましたが、「早急なライフラインの復旧を行うことで地域住民の方々に力になりたい」との思いが、私の原動力となり、無事に災害復旧作業を終えることができました。

土砂流出後

土砂片付け後

Q 所有する特殊機械について知りたいです。(株主・投資家)

A NIPPOは、日本の道路建設のリーディングカンパニーとして、舗装技術の「機械開発」と「材料開発」を両軸に、道路舗装の普及と技術の進化に努めてきました。特殊機械については、お客様からの様々な要求に応えるため、たくさんの開発、改良を行っています。代表的なものとして、当社の得意とする斜面舗装用機械、各種スタビライザ(傷んだ踏床や踏盤と各種添加材を混合する機械)、特殊コンクリート機械、交通安全対策として普及しているランブルストリップス用機械(路肩やセンターラインに切った溝で運転手に車線逸脱を知らせる)など、当社オリジナルの特殊機械は数十種類に上ります。最近では、自動で止まるタイヤローラなど作業者の安全を重視した機械の開発も実施しました。また、将来の建設従事者の減少を見据え、省人化機械の開発にも注力しています。詳細はウェブサイトもご覧ください。

URL http://www.nippo-c.co.jp/machidukuri/machine/index.html

スタビライザの一例

ランブルストリップス用機械

ミッチーくんからの質問!

子育て中の社員は、育児と仕事をどうやって両立しているの?

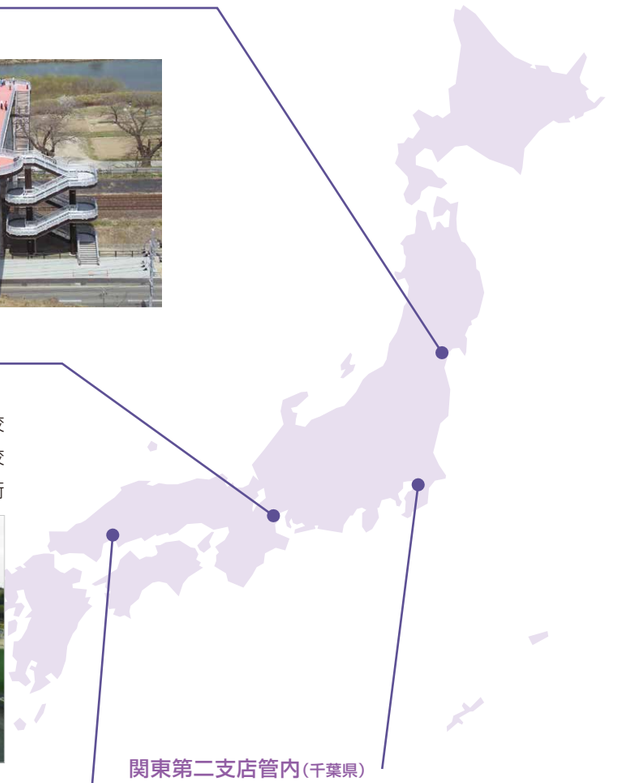
制度を取得した社員の声

現在、私は「所定労働時間の短縮制度」を利用し子育ての時間を確保しています。出勤前や寝かしつけ後のわずかな時間でやることは山のようにありますが、幸い差し伸べられる手が多く、また職場も子育てに理解があり助かっています。突然の保育園からのお迎え電話に備え、仕事はできるだけ前倒しで処理し、家事も育児も仕事にも、少し心に余裕を持つようにしています。

NIPPO健康保険組合
其田 舞

Q 各事業所での実績を教えてください。(取引先)

A 主な事業所に対して社会からいただいた評価を紹介します。
他事業所などの情報や詳細はWEBサイトへ URL http://nippo-c.co.jp/news_pdf/index.html



東北支店管内(宮城県)

工事名:仮称さくら連絡橋建設工事

日本さくら名所百選の地、柴田町の船岡城址公園と白石川一目千本桜を結ぶ歩道橋に、さくら色の舗装をしました。初めての試みとなる舗装でいろいろな苦労がありましたが、関係部署一丸で取り組み、桜の開花直前に無事開通できました。

さくら連絡橋

中部支店管内(三重県)

工事名:四日市中央工業高等学校グラウンド工事

四日市中央工業高等学校は、サッカー部が全国的にも強豪校であることから、三重県の強化指定運動部になり、県立高校として初となる人工芝コートに整備されました。当社の技術力を活用し、JFA公認コートと同等の精度に仕上げることができ、発注者である三重県より好評価を得ました。

四日市中央工業高等学校グラウンド

中国支店管内(広島県)

工事名:広島市中央庭球場改修工事

広島市より発注を受けた庭球場改修工事の施工場所は、広島市の中心部にあり、広島市民病院が隣接しているため、施工時には特に騒音と振動に注意しました。騒音は80db・振動は60dbを基準とし、使用機械の選定および施工速度に十分注意して施工を行いました。

広島市中央庭球場

関東第二支店管内(千葉県)

工事名:中山競馬場 芝馬場路盤改造工事

中山競馬場芝馬場路盤改造工事は、排水機能向上を目的とした工事で、2014年5月から8月の3カ月間と言う短期間で土工・路盤・張芝を行うものでした。工事完了以降は、芝の根付きや育成も良好で、JRA(日本中央競馬会)からは工事の成果について好評価をいただきました。

中山競馬場

「私のCSR」ページ

2011年度レポートから始めた「私のCSR」コーナーには、毎年たくさんの共感と激励のメッセージをいただいています。今年も多くの従業員に日常の取り組みを投稿してもらいました。

関西支店　**大地 敏明**

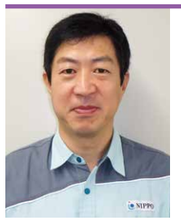
私の職場では、「適正に業務を行っていると自信を持って言える職場をつくる」を目標の一つにしています。業務中に誰でも「疑問」や「不安」を持つことがありますが、結論を急ぐあまりに自分だけで適当な判断をして、思わぬ法令違反や信用失墜につながることがあるかもしれません。そのような事態を招かないよう、早めの「報告・連絡・相談」ができる雰囲気づくりと、不正行為に対し「見て見ぬふりをしない」土壌づくりに努めています。

人事部　**橋本 紋奈**

円滑に業務を進めていくためには、明るく、いきいきと仕事に取り組める職場環境づくりが何よりも欠かせません。会社では社員同士が1日の大半を共に過ごす所でもあるため、皆が気持ち良く働けるよう、挨拶や声かけなどのコミュニケーションを大切にし、風通しの良い環境づくりに努めることが大切だと思います。もちろん、仕事の効率をUPするために労働時間をしっかりと厳守し、メリハリを付けて仕事に取り組み、ワーク・ライフ・バランスの取れた充実した生活を心掛けています。

関東第二支店　**西川 遥**

私は試験所に勤務し、現場調査や依頼試験に従事しています。「確かなものづくり」をしていくため、品質管理を担当する者として幅広い知識・経験が求められます。日々の業務を進めるにあたり、測定・試験結果の信頼性、再現性を念頭に置いています。また1歩前進するため、先輩方が行っている調査・試験業務に興味を持つように心掛け、見聞きするようにしています。早く一人前の品質管理担当者になれるよう、たくさんのことに挑戦し自分磨きに努めています。

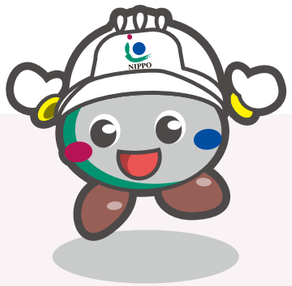


関西支店　**山田 和弘**

私が所属する技術センターは、部署柄、お客様からいろいろな技術相談を受けます。その中で、いつも費用対効果を念頭において提案するよう心掛けています。高価で高品質、安価で低品質は当たり前ですが、いかに品質を確保して価格を抑えた商品（工法）を提案できるか、が問われています。直接仕事に結びつかない相談も多々ありますが、“困ったことがあればNIPPOに相談すれば何とかなる!”と思っていただけるようなNIPPOファンを増やすべく、日々業務に取り組んでいます。

中日本管理支社　**矢野 紗也香**

人権問題を始め、差別や偏見は実情を知らないことから起きるのではないかと思います。そのために、例えば、新聞やニュースを通して、まずは先入観にとらわれることなく、「正しく知る」ことを意識しています。また、様々な情報を得る中で、自分の視野を広げていきたいです。



第三者意見

横浜市立大学 学術院
国際総合科学群 教授
グローバル協力コース長
上村 雄彦 氏

第三者意見を担当させていただいて3年になる。まずは4年ぶりに死亡災害ゼロとなったことを心からお祝いしたい。また、災害事故総件数でも、2013年度比29%減となったことは高く評価したい。言うまでもなく、人の命は何よりも大切なもので、それなくしてCSRも何もあったものではないからだ。

さて、昨年は、本業を通じて社会に貢献する「ほんもの」のCSRがどの程度実現できているかという観点から、改善点として、①女性従業員の少なさ、②合材部門と舗装・土木部門でのCO_2排出の増加、③2014年度目標値の小ささ、④どうやって目標を実現するかが明示されていないことを指摘させていただいた。

その点も踏まえて、本年度のレポートを読ませていただいたが、まず①は昨年度よりも2名減ったが、全体に占める割合は上昇しており、改善。②は合材部門が6.4%増で、要改善。③に関しては、「環境配慮型工法の技術営業推進」以外は、概ね合格。④は、文章の中に散見されるが、まとまった項目として具体的な記述はなかった。④については、昨年度の意見で、たとえば全国157カ所にあるアスファルト合材工場から排出される熱を活用して、温水を含めた新たなエネルギーを作り、地域冷暖房システム等を構築する「コジェネレーション」を推進することなどを提案させていただいたが、いかがだろうか?

他方、今年の報告書を読んで、死亡災害以外にも、(1)オフィス部門での電気使用量が2009年度比で14.7%、紙の使用量が同15.6%削減されたこと、(2)東日本大震災被災地である宮古市で新たにプラントを完成させたこと、(3)アスファルト合材の販売数量に応じて、売り上げの一部を「世界の子どもにワクチンを日本委員会」に寄付していること、(4)年々気温が高くなる状況で、「アクアクレイ」、「パーフェクトクール」などのNIPPOならではの技術を開発して、路面の温度を下げていることは高く評価したい。

特に、「アクアクレイ」は、水をかけるだけの簡単土系舗装であるにもかかわらず、アスファルト舗装が64.3度の時、39.8度と、24.5度の温度差をつくり出していることは特筆に値する。温暖化の進展で、ますます高温になり、それによる熱中症の増加が予測される中で、これらの技術はますます重要になっていくだろう。

「この道の先に」という未来へ向かう姿勢と希望を掲げたNIPPOには、これからも一歩先を行く具体的な取り組みと成果を大いに期待したい。

ご意見をいただいて

環境安全・品質保証部長
北村 一博

当社の取り組みについて継続して貴重なご意見をいただき、改めてお礼申し上げます。

経年で共通してご指摘いただいている合材部門のCO_2排出量（原単位）の増加については、長期にわたり目標を達成できておらず、さらなる取り組みの必要性を感じております。今後も工場設備の改善やCO_2排出量の少ない燃料への変更などにより対策を講じてまいります。

またご提案をいただいております本業を生かしたコジェネレーションについては、社会からの要請と実現可能性などを考慮し、検討していきたいと思います。

当社の舗装事業における環境技術については高く評価いただき、誠にありがとうございます。今後も日本の道路建設のリーディングカンパニーとして、舗装技術の進化に努めてまいります。

今年制定したコーポレートスローガン「この道の先に」は、従業員やその家族から応募いただいた中から決定し、未来へ向かう姿勢と希望を託したメッセージです。今後もよりよい未来社会の構築に向けて、さまざまなご意見を伺いながら改善に励み、CSR活動の取り組みを推進していきます。